

中間報告書

令和 年 月 日現在

1 事業名

良寛椿の森 VR・AR プロジェクト～良寛椿の会と地域の若者によるまちおこし～

2 実施期間 令和 7 年 4 月 23 日～令和 8 年 2 月 28 日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

1) 事業の目的：地域の高校生と高齢者が協力し、VR・AR といった XR の技術を活用して地域の魅力を発掘・発信し地域の活性化を図ることを目的としている。

2) 事業の概要：現実の玉島と、過去や未来の玉島を XR の技術で癒合させるプロセスの中で、高校生が地域への理解と愛着を深める。制作したコンテンツを地元のイベントや学校等の出前授業に活用するとともに、技術や知識を後輩へ継承する。加えて、将来的には、観光客向けのコンテンツとして提供することで、玉島に止まらず、倉敷市内や備中地域に広がる可能性がある。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

- ・良寛椿の会（以下、椿の会という）は、必要な機器の選定、貸与した。補助金により、既に交付されていた他の補助金で貸与した機器に加え、新たにレンタル機器（パソコン一式 1 台とゴーグル 5 個）を貸与した。また、他の補助金で、プリンターや放送部に対してはビデオカメラを貸与した。
- ・生徒たちは、探究活動の時間をメインに、放課後、夏休みには、補習の後の時間に取り組みを行った。
- ・椿の会の会員が、担当教員との連絡を行い、週 1 回以上訪問して、生徒たちの進捗状況の把握と要望の把握を行った。
- ・4 月には、植樹祭において、良寛椿の苗と一緒に植樹を行った。苗木を植えるのは、初めてという生徒が多く、熱心に取り組んでいた。
- ・椿の会の会員で、郷土の歴史に詳しい会員から写真や古い地図などをパワーポイントを用い、「源平合戦の古戦場跡を観ながら郷土の歴史や、当時の気象条件によって、唯一平家が勝利した場所を示し、説明を行った。
- ・同じく会員から、高瀬通しの水路や水門跡など、現在も残っている写真や古い地図から、高瀬通しと、北前船の寄港地である玉島港が果たしていた役割など、収集した資料を基に講義を受けた。
- ・これらの講義を聴き、現在も玉島に残る茶室巡りを、生徒が希望して、会員だけでなく、茶室の保存・活用に取り組む他団体と交流を図り、生徒自らが茶の湯体験を行った。また、VR に使用する写真撮影も行った。
- ・生徒たちの VR 技術の向上を図るために、研修や技術指導を行う団体等の必要な情報収集と教員・生徒への情報提供を行った。高校からの依頼で、株式会社白獅子（以下（株）白獅子という）から、無償で 2 名の職員が訪れ、一日指導を行った。後日、椿の会から（株）白獅子を訪問し、生徒の現状について聴いたところでは、生徒は自分たちの方向性と達成するための枠組みを理解できている。技術的な支援を 2 度程度行えば、あとは、メール等のやり取りで進むのではないかと、いうことであつた。
- ・倉敷市長との対話集会で、生徒が自ら手を挙げてこの会への参加を要望し、採用されて、プロジェクトに取り組む決意と抱負を語った。（資料 1）

<今後、実施すること>

- ・VRや出前講座等の研修費を効果的に執行するために、作陽高校、玉島高校と今後の研修のあり方について検討を行い、既に（株）白獅子より、協力の申し出が届き、日程調整を行っている。
- ・VRだけでなくARの作成においても、だれでも見られるような工夫（スマホを用いる、ホームページ上に公開する）に取り組んでいるので助言を受ける予定である。
- ・令和8年2月8日の成果の公表の場としてシンポジウムを予定していたが、高校生と企画の段階から意見交換をし、計画する方向で計画修正を考えている。その際の会場の選定、予約等、椿の会全員でバックアップの予定である。また、協力者（備中県民局担当者、玉島商工会議所、玉島テレビ放送、玉島信用金庫、玉島文化協会、倉敷市建設課、観光課等）を招き、コメントをいただくことなど、検討している。

③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

1) これまでの成果として、

- ・他の部活動への波及効果があった。今回のプロジェクトに取り組む生徒たちに刺激を受けて放送部が、良寛椿の会の活動をテーマにドキュメンタリーを製作しており、大会への出場を目指すことになった。
- ・本プロジェクトのゴールを使用して生徒たちがオープンスクールで中学生や小学校へ出向き、取り組みの紹介を行うなかで、次年度だけでなく将来への継承につながるのではないかと考えている。
- ・先述の倉敷市みらいミーティング（市長と市民が社会的課題をテーマに意見交換をする）への参加を生徒自ら手を挙げて参加して、良寛椿の会との協働を発表した。取り組みをできる限り公表することで、玉島の再発見、新発見につながる可能性がある。
- ・生徒たちは、事業開始の前（昨年10月頃から）から、椿の会の高齢者と話す機会が増えているが、今年4月に実施したアンケート（資料2）では、同居の高齢者と話す機会が、どちらかと言えば少ない生徒が多いが、プロジェクトの高齢者とは話ができると答えた生徒が多かった。高校訪問時においても、スムーズに応答できているので、手ごたえを感じている。（資料4）

・これまでに実施した内容と参加人数

評価指標	内容	VR参加者	実績
地域の歴史講座	郷土歴史について 3回	17人	延べ60人
自己評価アンケート	VR技術、世代間交流地域への関心など	17人	17人
VR・AR 研修	対面の指導2回	17人	16人
フィールドワーク	茶室巡り 1回、写真撮影1回	17人	32人
	苗木植樹（参加者60名）	17人	17人
VR・AR研修	eラーニング（予算2名分）	17人	1人
中間成果発表会	中間報告 発表者 聴取者数54名（玉島高校）	16人	16人

2) 今年度事業終了後の成果・効果の見込み

- ・生徒たちの取り組む姿勢・意欲は前向きであり、取り組む方向性や枠組みも理解している。また、成果物の到達レベルの如何にかかわらず、取り組みの継続性を意識しており、下級生に引き継ぐ必要性も認識していると見受けられる。（別紙スライド等）
- ・事業実施当初のアンケートでは、VR・AR・ビデオ作製に関する質問、倫理的配慮、世代間

交流、地域への関心・愛着に関する評価項目について記入してもらった。

祖父母と同居の別の質問、自由記述としてプロジェクトを進めていくうえで、気づいたこと、感想・目指す成果や豊富、将来の夢など、自由に記述してもらった。（資料3）

〈アンケート自由記述〉（資料3丁目）

- ・玉島の歴史を知る良い機会だと思うので、知識を蓄えて発信できるように頑張りたい
- ・VR 技術を開発できる環境を整えてくださって方々の期待を裏切らないためにも成果をあげたいです
- ・とても楽しいです。良寛椿の森を復活させたいです

④ 課題等

1) 課題

- ・生徒の自主的な取り組みで進んできたが、生徒の到達レベルに差があることや専門家の助言を必要とする場面が見られる。しかし、生徒の自主的な取り組みを阻害するような形で介入はできない、というジレンマがある。
- ・良寛椿の会として、専門家に関する情報収集とどのような知識や技術的支援が可能なのかを専門家とコンタクトを取り、検討を行っているが、先進的分野であり、アクセスのよい地域の専門家の数が限られていること、講師料が予想していた額を上回っているなど、この間明らかになった新たな課題である。現在、2・3か所の専門家集団にコンタクトを取っていたところ、協力を申し出ていただいております、日程調整に入っている。
- ・県立高校は、教員の転勤がつきものであるが、その場合には引継ぎ等について、高校側も良寛椿の会としても、強く要望している。
- ・玉島高校に岡山県教育庁教職員課の職員が来校し、VR プロジェクトの取り組みを披露した際、とても良い取り組みであり、継続した取り組みをしてほしいと激励されたこともあり、次年度への取り組みと下級生への継承への意欲とともに課題としても認識している。

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した

収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

5 次年度以後の事業展開

次年度の事業展開	事業展開の方向性 (以下のチェック欄のいずれかに「✓」を記入してください。)
	<input checked="" type="checkbox"/> 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。
	<input type="checkbox"/> 地域づくり事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。
	<input type="checkbox"/> その他（ ）
	中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容
	<ul style="list-style-type: none">・次年度は、広報活動と内容の深化を目標とする。今年度の事業による成果物である良寛椿の森などの作品の内容を深め、観光に活用できる水準に高め、活用する機会と場を設ける。高校生は、引き続き探究活動の時間に活動する。玉島や備中地域の歴史など新テーマへの取り組みを行う。・事業の内容から、収益を上げることは難しいため、広報活動等は、市の観光課、商工会議所、文化協会、駅の観光所、市のアンテナショップ等で、

	<p>活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉島円通寺における植樹は次年度4月に第4回植樹祭を実施予定であるが、倉敷市建設課による石垣の整備が進み、遊歩道の整備も行われる予定であり、AR・VRの作品の活用による市民や観光客に対して、広報しやすい環境整備が進む予定である。 ・貸与した機器のメンテナンスや消耗品の補充は、高校において行われ、3年を経過した時点で、所有者は各高校とする。 ・作品のブラッシュアップは高校生を主体に行われ、必要に応じて（株）白獅子により、メール等で支援を受ける。
--	--

みらいミーティング質問票

7月14日(月)までに
先生に提出してください。

みらいミーティングは、市民と市民が社会的課題をテーマに意見交換をする場です。会の進行の参考にさせていただきますため、質問票の提出をお願いします。

※当日、倉敷駅から倉敷市役所までの送迎バスを利用される方は、右に○をつけてください。

日 時	8月4日(月) 10時30分～12時00分		
場 所	倉敷市役所本庁舎10階大会議室		
今回のテーマ	みらいを見据えたまちづくり		
高校名	岡山県立玉島高等学校		
1人目	お名前	お住まいの地区	バス利用※
	緊急連絡先		(有)・無
2人目	お名前	お住まいの地区	バス利用※
	緊急連絡先		(有)・無
3人目	お名前	お住まいの地区	バス利用※
	緊急連絡先		(有)・無

① 地域課題の探究学習に取り組む中で得た知識やデータの中で、特に重要だと感じたものは何ですか？その理由も教えてください。

私たちは、玉島地区の魅力についてWebページを活用した発信の在り方や地域の「良親の会」とともに玉島の未来の姿をVRで表現する課題研究を行っています。

具体的には、玉島地区のWebページによるアピールのためには、ターゲット層の明確化、ユーザー視点の情報設計(UI/UX)、魅力を伝えるコンテンツ制作・SNS上の連携、信頼性の担保、導線の設計、SEO対策(検索エンジン対策)などの必要性が考えられた。玉島の未来をVRで表現する上では、資料収集、VR技術の理解、活用、課にでも伝わる表現法の模索が重要であった。今までの活動を振り返って、自分の地域のPRをするにあたって何よりも大事なことは、その地域をよく知っており、愛している、人々に知ってもらいたいとの知識と努力、そして時に思い思いが必要であると感じた。

資料1

② 地域の活性化のために、あなたがこれから取り組みたいことはありますか？具体的なアイデアはありますか？

「良親の会」との協働的な活動を通して、地域活性化のためには地域に来てくださる観光客などへの

アピールも重要であるが、玉島に住まわれている人々の思いをくみ取った活動でなければならない。

今、少しずつ100年後の玉島をイメージした作品が完成に近づいている。玉島地区の方々からお話を聞いて、取組を参画させ、玉島地区の歴史を紹介するVRなどの制作をしたいと考えている。

※ご記入いただいた個人情報、当事業の実施に必要な範囲でのみ使用し、その他で使用することはありません。必ず録音で、個人情報をそのまま掲載することはありません。

倉敷市役所市民広報課

生徒アンケート（自己評価）

実施 年 月 日

質問1. 下記の質問について、自分にあてはまると思う数字を下記の5から1の中から選んで○をつけてください。

評価度		5	←			1
		大いに当てはまる				当てはまらない
評価項目		評価度				
(1)VR・AR・ビデオ作製	①VR又はARに関する知識・技術を理解できる	5	4	3	2	1
	②VR・ARの作成に必要な情報収集と活用ができる	5	4	3	2	1
	③VR・AR作成上の課題の発見と明確化ができる	5	4	3	2	1
	④分からないことはチームメンバーに助けを求めることができる	5	4	3	2	1
	⑤意見の違いや立場の違いを理解し、チームとして協力できる	5	4	3	2	1
(2)倫理的配慮	⑥収集した情報の適切な保護や取り扱いができる	5	4	3	2	1
(3)世代間交流	⑦祖父母と日ごろからよく話をしている	5	4	3	2	1
	⑧日常的に高齢者と交流し話す機会がある	5	4	3	2	1
	⑨日常的に小・中学生と交流し話す機会がある	5	4	3	2	1
	⑩プロジェクトで連携する高齢者の話を傾聴することができる	5	4	3	2	1
	⑪プロジェクトで連携する高齢者の助言や意見を求めることができる	5	4	3	2	1
(4) 地域への関心・愛着	⑫玉島・備中地域の歴史に関する知識がある	5	4	3	2	1
	⑬円通寺・良寛さん・良寛椿の知識がある	5	4	3	2	1
	⑭玉島・備中地域に魅力を感じている	5	4	3	2	1
	⑮玉島・備中地域の魅力を発信したいと思う	5	4	3	2	1
	⑯家族と玉島のことにに関して話をすることがある	5	4	3	2	1

質問2. あなたは、祖父母と同居または同居していたことがありますか。 (1) ある (2) ない

質問3. プロジェクトを進めていて、気づいたこと・感想・目指す成果や抱負、将来の夢など、自由に書いてください。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	質問 2
	VR又はARに関する知識・技術を理解できる	VR・ARの作成に必要な情報収集と活用ができる	VR・AR作成上の課題の発見と明確化ができる	分からないことはチームメンバーに助けを求めることができる	意見の違いや立場の違いを理解し、チームとして協力できる	収集した情報の適切な保護や取り扱いができる	祖父母と日ごろからよく話をしている	日常的に高齢者と交流し話す機会がある	日常的に小・中学生と交流し話す機会がある	プロジェクトで連携する高齢者の話を傾聴することができる	プロジェクトで連携する高齢者の助言や意見を求めることができる	玉島・備中地域の歴史に関する知識がある	円通寺・良寛さん・良寛椿の知識がある	玉島・備中地域に魅力を感じている	玉島・備中地域の魅力を発信したいと思う	家族と玉島のことに関して話をすることがある	祖父母と同居又はしたことがある
ア	3	3	4	5	5	5	4	4	4	5	5	4	4	4	5	3	2
イ	3	2	2	4	3	3	1	4	1	5	5	5	5	5	5	3	2
ウ	3	3	4	4	3	3	2	2	3	2	2	3	3	4	4	2	2
エ	3	2	3	4	5	4	5	4	3	5	4	4	4	4	4	2	2
オ	3	4	4	5	5	5	4	2	3	2	2	4	3	5	5	5	2
カ	4	5	5	5	5	5	5	4	3	5	5	5	5	5	5	3	2
キ	2	3	3	5	5	3	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	1
ク	2	3	4	5	5	5	4	5	1	5	5	3	3	3	3	3	1
ケ	3	5	5	5	5	5	5	3	3	5	5	3	3	4	5	4	2
コ	3	4	4	5	5	5	3	2	5	5	5	3	3	4	5	4	1
サ	3	4	4	5	5	5	3	3	3	5	5	4	4	4	5	3	2
シ	2	4	4	4	5	4	3	5	5	5	5	4	5	4	5	1	2
ス	3	4	4	5	5	5	3	2	4	5	5	3	3	5	5	3	2
セ	4	4	5	5	4	3	2	2	2	5	4	3	5	4	5	3	1
ソ	4	4	4	4	4	3	5	5	5	2	2	4	4	3	5	4	1
タ	4	4	4	5	5	5	4	2	2	5	5	2	2	5	5	5	2
チ	4	4	4	5	5	5	1	1	1	5	5	1	3	3	1	1	1

	質問3 自由記述
①	情報への道はとても大変で、自分の技術を上げないといけないので、努力することがとても大切だなと思いました。
②	歴史について調べるうちに、玉島の普段見落としているような場所について知ることができた。また、こうやって調べて見つけた魅力を外の人にも発信していきたい
③	玉島の歴史をVRで発信していきたい。
④	ホームページを通じて玉島のことにについて多くの人に興味をもってもらいたい
⑤	無
⑥	無
⑦	無
⑧	無
⑨	美しい玉島を作れるようにしたい。魅力を伝えられるようなものを目指したい
⑩	現代化にあった機械で紹介できるようにして、別の人や他の地域の人にも知ってもらいたい
⑪	玉島の魅力を伝えられるようにしたい。将来の役たつ経験をしていいたい
⑫	玉島であった源平合戦の様子を3Dモデルで表現し、うまくいけばゲーム要素を取り入れたい
⑬	玉島の歴史について知る良い機会だと思うので、知識を蓄えて発信できるようにがんばりたい
⑭	プロジェクトを進めていて、玉島の魅力を発信するために、こんな素晴らしい環境を準備してくださっていることにずっと感動しています。環境を作ってくださっている方々の期待を裏切らないためにもせいかをあげたいです
⑮	地形と水をどうにかする
⑯	海に船を浮かべて動かせるようにしたい
⑰	とても楽しいです。VRの技術をたくさん学び、良寛椿の守を復活させたいです！！

